

たまにはシドニー

愛媛大学総合健康センター 村上 和恵

みなさんこんにちは。今回は南半球の話です。実は2年前にも行く予定だったのですが、直前に急きょキャンセルとなりました。国外に出るときはいつも急です。今回も出国の1か月前に決めましたので飛行機の座席の確保が大変でした。

さて、シドニーへは成田から直行便で約9時間45分。2016年12月21日に出国し、翌1月1日に帰国しました。最近の飛行機は座席がゆったりとしていますし、シートビデオのフィルムの本数も多く退屈しません。しかも直行便ですので面倒な乗り換えと時間のロスがありません。気がつけばもうシドニー上空です。時差はサマータイム時には2時間ですが、4月からは1時間オーストラリアのほうが早く夜が明けます。

空港からNorth Rockの家までタクシーで30分ほどかかります。ドライバーはパキスタンから来たということでした。その後も何度かタクシーに乗ることがありましたが、彼らのほとんどは南アジアあたりからやって来た人たちでした。具体的には、パキスタン、バングラデシュ、インド、アフガニスタン。同じ南アジアでも出身国によってオーストラリアに居住する事情は違うので、話してみると面白いですよ。

North Rockはゆったりとした住宅街で古くからの木造の家が多く、コッカトウー（白く



大きな鳥です)

を多く見かけました。ま、交通事故死も多いそうなのですが、12月半ばのシドニーは日中25~27,8°C（時には1日だけ35°Cなんてこともあります。）で様々な植物や鳥をみかけました。郊外のブルーマウンテン国立公園では、不本意

な交通事故死のカンガルーも生きたカンガルーもみかけました。



ウオンバツ



トらしき死体も！さらには真っ赤やグリーン、ブルーの色鮮やかなキングパロットやクリームゾン・ロゼールなどなど。植物も有名なユーカリ、ブラシの木だけでなく、紫と白のアガパンサス、百日紅、アザレア、マリーゴールド、バラ、ルリマツリ（かな？）他見たこともないようなきれいな花々♪庭先ではリングオやナシやマンゴーやプラムの木々がそれぞれ小さな実をギッシリつけています。3歳と6歳の子どもたちを連れての夕方の散歩は楽しみの一つでした。

ここで質問。オーストラリアに来てみて、私が一番驚いたことは何でしょうか？答えはのちほど。

クリスマスはシドニーから車で 2 時間くらいのところにあるブルーマウンテン国立公園
近くのコテージで過ごしました。ブルーマウンテンにあるシーナリーワールドは大勢の人
たちでごった返していましたが、事前にネット予約してあったので、ほとんど列に並ぶ
ことはありませんでした。ここは太古の森の中でも突出した巨大な岩々を二つのケーブル
と現代版トロッコ列車で繋ぐジュラシックパークさながらの観光施設です。近くにはカト
ンバという小さな町がありましたので、ご多分にもれず 1800 年代後半のシドニーを描いた
古い版画をしっかりと購入しました。またこの町にはハッテリーという古くからの帽子の
店があります。ツバの大きな夏の帽子はバースデーギフトとしてもらいました。

現代版トロッコ列車：これはかなりの傾斜ですので、座席の角度を 45 度くらいから 60 度
くらいまで変えることができるようになっています。



ケーブル線

ケーブルの中からはいくつもの
滝を眼下に見ることができます。

コテージは Possums という名前が付いているので、このあたりには野生のポッサムが生息しているようですね。敷地内を散歩していると樹上にそれらしき姿を見つけました。



Katoomba (カトンバ) にある Hattery (ハッターリー) という帽子屋さん。大好きな店の一



つです。次回はポッサムの帽子をぜひ！



カトンバにはこのような絵が壁や家のあちこちに描かれている場所があります。ちょっとユニークでしょう？



次はジェノランケイブズ，鍾乳洞についてです。山奥を分け入ってようやくたどり着いたところ，そこはまるで巨大な岩をくりぬいたトンネルのようでした。中には人がたくさんいます。恐る恐る車のスピードを緩め前へ進むと，「トンネルを抜けるとそこは雪国だった。」ではなくまさに「トンネルを抜けるとそこにはジョージアンスタイルの建物が建ち並ぶ街並みだった。」でした。しかし，ここは山の中。駐車場ははるかに上。歩いて降りてくるのも大変でした。



クリムゾンロゼンタール。
生きていますよ♪



この穴を目指して上ったあと、下へ下へと降りて行きます。沖縄の玉泉洞は前後に長いのですが、ここは下へ下へと階段を下りて行くような感じです。タスマニアデビルの骨も展示されていました。



こちらはキングパロットだったような。

さて、山から戻れば下界は暑い！ということで、数日後にシドニー郊外の Bondi (ボンダイ) ビーチへ行きました。子どもたちは大喜びです。到着するなり砂の上で泳いでいます。海はちょっと子どもには冷たいので足をつけるだけ。それでも大はしゃぎです。海中ではサーファーが横一列に並び波を待っています。ビーチは広いので波も一つではなくあちらこちらから押し寄せます。



大晦日はシドニー名物の花火です。午後 8 時頃からハーバーブリッジを見下ろす高台でカウントダウンの花火を待っていました。周りを見回すと、なんと臨時に作られた ATM やら散髪屋さんやら、ダンス上やら移動フォトスタジオやら子どもの遊び場やらが設置されています。音楽はガンガン！kissing booth で写真を撮っているカップルもいましたよ。





午後 9 時になるといきなりバチバチバチッとブリッジとは反対側が明るくなり花火が何発もあがりました。やがてそれが終わると、人々はダンスに興じ、芝生の上の敷物に寝転がり、ディナーを食べワインやビール、シャンパンを飲み、子どもたちもバケツのボーリングなどで楽しそうに遊んでいました。なんだかんだしているうちに、あら？もうこんな時間？もう 0 時近く♪

橋の横の巨大なディスプレイには世界各国の言葉で次から次へと「ようこそシドニーへ」。

やがてそれらの文字が数字に変わり人々が一斉にカウントダウン。「ナイン、エイト、セブン、.....ワン」と言い終えるや否や目の前一面がキラキラと輝き、ブリッジ側とオペラハウス側に次から次へと絶えることなく花火があがりました。その光景は言葉には表せないくらいきれいで、自分がどこにいるのかさえ忘れるほどでした。

それも終わると人々はぞろぞろと通りをバスのほうに向かって歩き始めました。市内は車両乗り入れが規制されていますので、バスが待っている場所まで歩くのです。途中大勢の警察官やボランティアの人たちが助けてくれますので、困ることはありませんでした。

さて、話を戻しましょう。「オーストラリアに来てみて一番驚いたことは？」

答えは①いたるところでタクシーが利用されていることと、②ドライバーさんは南アジアたとえばパキスタン、バングラデシュ、インドなどの人が多い、ということです。スマホを使いGPSを利用してすぐに来てくれますのでとても便利でした。ちょうど花火の時に利用したタクシーのドライバーさんは北インドの出身でした。「ナヤー サール ムバラク」降り際に私が言うと驚いた様子で「アープコ ビー」。私が言ったのは「新年おめでとう」彼が返してくれたのは「あなたへも（新年おめでとう）」長くインドとの縁があるとこんな簡単な会話もできるようになりました。

実は、この原稿は今年1月に書き始めたのですが、忙しさにまぎれてあと少しで年末、というところまでできてしまい大急ぎで仕上げたものです。よく海外に行っていていいですね♪と言われるのですが、あまり観光はしないで現地に住む人と同じように普通に生活をします。そのようなわけで、皆さんのほうが名所や食べ物など、よくご存じだと思います。

中国四国大学保健看護分科会では、他の地方の皆さんの投稿もお待ちしています。趣味、ペット、ファッション、映像、食べ物、普段の生活、どのような内容でも結構です。是非気軽に投稿をお願いします♪